

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	上り坂の圧雪路に救急車を停車、発進時にスリップし後方へ滑り出し制御不能となった事例。
3. 体験した事例の中心的要素	救急出動時、傷病者を車内収容し上り坂を前方に発進しようとしたところ、停車位置が急勾配であり、かつ路面が圧雪路状態であった為、車両が左後方に滑り始め制御不能の状態になり、車両停車位置後方にあったガードレール、花壇に接触した後、道路と道路下の駐車場の段差(高低差約1m)に左後輪が脱輪し走行不能となる。
4. 体験した事例の原因・理由	スタッドレスタイヤを装着していたが、勾配の強い上り坂で圧雪路となっていたため、登坂できても停車後の再発進はスリップし前に進めなかった。スタッドレスタイヤの対処能力を超える場所に停車してしまったもの。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成26年12月14日 午前8時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：住宅街にある勾配の強い上り坂の町道。
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急現場活動終了時
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	搬送中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[40]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[16]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[28]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[8]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[20]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	78歳 女性(傷病者)

11. 事例発生経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者 A	車外で発進の誘導。	
経過2	当事者 B	上り坂を前進しようとPからDへシフトを変える。	
経過3	当事者 B	サイドブレーキを下げる。	車が若干、下がる。
経過4	当事者 B	アクセルを踏む。	前に進まない。
経過5	当事者 B	ブレーキを踏む。	車が後ろへ滑り出す。
経過6	当事者 B	ハンドルを保持していたが、制御不能。	ガードレールに接触。
経過7	当事者 B	ブレーキは踏んだまま。	さらに滑り、花壇に接触。
経過8	当事者 C	傷病者の安全確保。	怪我なし。
経過9	当事者 B	ブレーキは踏んだまま。	左後輪が脱輪、自走不能。
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



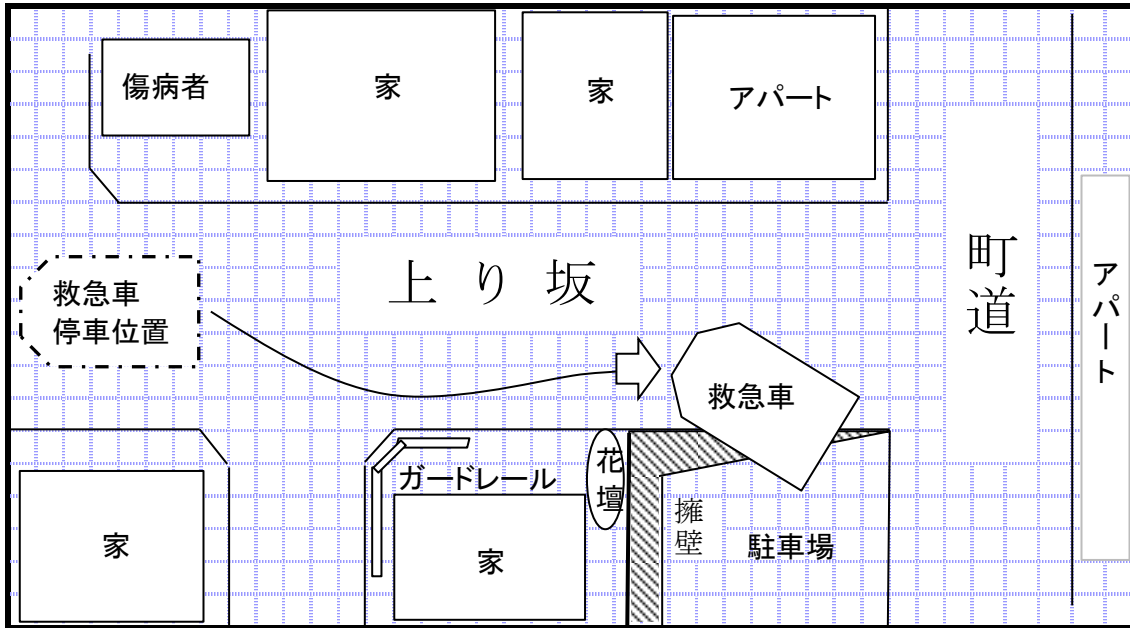
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

事故状況の略図



- ・図面の上り坂、左側にかけて勾配が強くなっている。
- ・道路状況は、積雪後の圧雪路。
- ・救急車停車位置から後方へ滑った軌跡を線で表す。
- ・救急車は六角形で表し、左側が車両前方(フロント側)となる。
- ・救急車は2年目のスタッドレスを装着、摩耗状況(約8分山)については異常なし。
- ・救急車はフルタイム4WD。